

生命科学Webセミナー

2021. Oct 1st (Fri) 15:00~17:30

Zoom配信（登録方法は配信したメールをご確認ください。）

科学と社会との関わり方

生命現象を含む様々な自然現象の科学的理解は急速に進んでいる。しかし、その科学的理解の現状は、適切に一般の人々に伝わっていない。研究の成果はなぜ上手く伝わらないのか、伝えられないのか。また、社会での様々な問題は科学と直結しているが、うまく科学的知見が社会で活かされない場合が多い。

今回のセミナーでは、著名な科学ジャーナリストとして、三井誠氏と須田桃子氏をお招きして、「科学の成果を伝える」「社会のなかでの科学」ということに関わる問題や展望についてお話頂く。

15:00-15:10 はじめに

15:10-16:00 **三井誠 氏（読売新聞）**

「人は科学が苦手」

16:00-16:50 **須田桃子 氏（News Picks）**

「社会の中で科学する」

16:50-17:20 全体質疑

講演者略歴

三井誠氏

読売新聞東京本社編集局英字新聞部次長。1994年、読売新聞東京本社に入社。科学部で生命科学や環境問題、科学技術政策などの取材を担当。2013-14年、米カリフォルニア大学バークレー校ジャーナリズム大学院客員研究員。2015-18年、米ワシントン特派員として大統領選挙や科学コミュニケーションなどを取材。近著『ルポ 人は科学が苦手』（光文社新書）で「科学ジャーナリスト賞2020」を受賞。2020年から慶應義塾大学大学院理工学研究科非常勤講師、21年から日本科学技術ジャーナリスト会議理事も務める。

須田桃子氏

2020年4月からNewsPick編集部副編集長。2001年毎日新聞社入社。水戸支局を経て、科学環境部に所属し、科学、医療、科学技術行政などを取材。『捏造の科学者 STAP細胞事件』（2014年）で「大宅壮一ノンフィクション賞」、「科学ジャーナリスト大賞」を受賞。2冊目の単著に、約1年間の米国取材を基に書いた『合成生物学の衝撃』（2018年）。日本の科学の現状と背景を追った科学面の長期連載「幻の科学技術立国」で取材班キャップを務めた。同連載を再構成・加筆した『誰が科学を殺すのか』（2019年）で科学ジャーナリスト賞受賞。

後援:ダイバーシティ推進委員会

問い合わせ先:河田雅圭 kawata@tohoku.ac.jp